

東アジア連携のための人材の確保について

1. 人材の確保に関する課題は以下のとおりでよいか。

- ・ 今後、我が国の総人口が減少。特に将来の我が国の発展の中心として期待される若手人材の人口が減少。
- ・ 加えて、戦後の経済成長を支えた団塊の世代（1947年～49年生）が2007年から10年にかけて定年に達するいわゆる「2007年問題」は、製造現場での技術・技能継承の危機を惹起している。
- ・ ニートなどの存在は我が国の発展の観点からは極めて大きな損失であり、短期的にはこれらの人的資源の活用を図ることは重要であるが、そもそもそういう存在が発生しないような根本的な対応を図る必要がある。
- ・ 我が国生徒の学力低下や学習意欲の低下に見られる次世代人材の質的な低下は、我が国の長期的な発展を危うくする深刻な問題。
- ・ 今後、より一層の東アジアなどの海外との連携・交流やそれを支える裾野としての地域経済の維持が必要となり、求められる人材が多様化していく。
- ・ 国内では限られた人材の獲得競争が見込まれるが、同時に、海外においても世界的に優秀な人材の獲得競争が見込まれる。

2. 今後の検討の方向案は以下のとおりでよいか。

- ・ 初等中等教育から社会人の段階まで長いスパンで育てていく。
- ・ 必要な人材はどのような人材かを意識して育てていく。
- ・ 既存の知的資産などをフルに活用して育てていく。
- ・ 育成プロセスは体験、教育、訓練、活躍機会提供など多モードで行う。
- ・ 東アジア連携、産業界、地域社会などの現場が求める人材ニーズを育成プロセスに反映させる。
- ・ 全国・地域ブロック・自治体・コミュニティ等様々な単位で育成する。
- ・ 政府・経済界・学界・地域社会などで役割分担する。
- ・ 知的外国人の活用も視野に入れる。
- ・ 文化資本などに触れる機会の格差に配慮する。
- ・ 既存の人材を適材適所に活用する。
- ・ 産学連携、大学等の独立行政法人化、イノベーション重視の科学技術政策・産業政策、研究者の流動化など関連する施策と連携する。